

本委員会は高度な個人情報を取り扱っているため、議事内容は要約とし該当箇所は非公開と致します。

令和 2 年度 吹田市胃がん検診(胃内視鏡検査)精度管理委員会 要旨

1 開催日時

令和 3 年 1 月 13 日(水) 午後 2 時から午後 2 時 40 分まで

2 開催方法

「ZOOM ミーティング」を用いた Web 開催(事務局:吹田市立保健センター)

3 出席委員

塚原康生 委員長 相馬孝 委員 辻井健一 委員 天野一郎 委員 伊澤光 委員
井上了豪 委員 大庭宏子 委員 林史郎 委員 水野智恵美 委員 長生幸司 委員
杉本憲治 委員 中川彰史 委員 野中親哉 委員 橋本宏明 委員 松村有美子 委員
林義人 委員 川西克幸委員

4 欠席委員

網岡勝見 委員 石川真平 委員 上山茂充 委員 岡本紀夫 委員 阪口忠彦 委員
金田真弥 委員 古賀秀樹 委員 神下真慶 委員 吉井友季子 委員

5 市出席者

吹田市保健所

所長 柴田敏之

健康医療部保健センター

センター長 岸敏子 参事 村山靖子 主幹 黒田雅子 主査 飯田郁 主査 及川功
主任 溝口加奈子 係員 尾立姫奈

6 内容

(1)委員紹介・事務局紹介

(2)委員長の選出

(3)報告事項

ア 令和 2 年 吹田市胃がん検診(胃内視鏡検査)実施状況について【資料 1】

イ 令和 2 年度 胃がん検診(胃内視鏡検査)チェックリスト集計結果について【資料 2】

(4)検討事項

ア 吹田市胃がん検診(胃内視鏡検査)受診票の改定について【資料 3】

A 委員

令和 3 年 4 月改定に向けて、意見や質問等があれば事務局へ連絡する。

イ その他

(ア)令和3年度 吹田市胃がん検診(胃内視鏡検査)精度管理委員会

設置要領(案)について【参考資料】

事務局

令和元年度と令和2年度については、胃がん検診(胃内視鏡検査)の導入時期であったことから、すべての協力医療機関の先生方に委員として御参加いただいたが、令和3年度以降については、他のがん検診の精度管理委員会と同様に委員を絞って実施したい。委員でない先生方に対しては、医師会が主催する研修会の機会に情報共有を図りたい。

B委員

他のがん検診と同様に、胃がん検診(胃内視鏡検査)においても毎年度研修会を実施する予定であるため、その機会に情報共有を行っていく。

<決定事項>

- ・令和3年度以降の吹田市胃がん検診(胃内視鏡検査)精度管理委員会は、他のがん検診と同様に、委員を絞って実施していく。
- ・協力医療機関の先生方には、研修会の機会に情報共有を行う。

(イ)精密検査の結果報告書について【資料なし】

事務局

資料1「令和2年 吹田市胃がん検診(胃内視鏡検査)実施状況」の表4「令和2年(1~9月請求)胃がん検診(胃内視鏡検査)要精検者内訳」について、該当者14名のうち13名は、検診時に生検を実施したが、その結果報告書が未返送であった者。精検受診率向上のために未受診/未把握者数を減少させたいと考えている。受診票と合わせて結果報告書を御提出いただくよう改めてお願いしたい。

(ウ)生検結果の説明に係る保険診療について

C委員

全国的に、保険診療として請求可能としている自治体も多い。

A委員

保険請求しているということは、当然保険診療と認められているということか。

C委員

そのようだ。受診者全員を対象に結果説明を実施している自治体は保険診療として請求していないが、改めて生検結果のみを説明する場合には、概ね保険診療として請求可能としている。

B委員

吹田市医師会としては、がん検診の結果説明、生検結果の説明までを1つのくくりとして検診を運用している。他のがん検診と同様にして実施しているため、胃がん検診(胃内視鏡検査)のみ特殊な運用をすることはできない。

(エ)胃内視鏡検査の撮影方法について

D 委員

二次読影を実施する中で撮影コマ数が80～100コマに及ぶ場合がある。当初の説明では35～40コマとのことであったが、倍以上となると二次読影に手間取ることがある。撮影コマ数に上限を設ける予定はないか。

A 委員

確かに撮影コマ数の目安は定められているが、コマ数が倍であったとしても、少し時間がかかってしまうだけでそれほど手間ではないと個人的には感じている。

D 委員

白色光の写真が35～40コマ確保されたうえで、必要な部位についてLCIやBLI、MBIの写真があるのであれば良いが、白色光の写真が十分でない場合も見受けられるため、意見として述べさせていただいた。

B 委員

検診としては、全視野を白色光で30～40コマ程度撮影することを基本とし、特殊光による撮影はあくまでも補助的なものと認識していただくようお願いしたい。

(オ)二次読影の運用方法について

D 委員

二次読影を実施する際、機器の起動やコード類の接続、ソフトの立ち上げ等の手間を要する。将来的なこととして、クラウドを用いた二次読影システムの運用を検討してもらいたい。